



大人のスキーを楽しみませんか？

# COLORADO Wonderful ski



世界中のスキーヤーから好まれるワシントン、アラスカをはじめ  
 大人がスキーを楽しむのに最適な場所。美しい自然環境、  
 高級スキーリゾートが多数あり、アメリカ・コロラドスキーエリア。  
 今回は、アルペンレジャー時代に何度も訪れ、思い出の多い岡部哲也と  
 コロラド初体験のフリースキーヤー寺田シュリが  
 大人のスキーリゾートを滑る。

旅人 II 岡部哲也 (シニアシニア代表)  
 寺田シュリ (フリースキーヤー)



写真＝  
 菅沼浩、編集部  
 協力＝  
 COLORADO SKI COUNTRY USA、  
 VAIL、BEAVERCREEK、  
 SNOWMASS、ASPENMOUNTAIN、  
 ASPENHIGHLANDS、  
 STEAMBOAT  
 Special Thanks ＝  
 SKI America(goskiamerica.com)

**岡部哲也**  
 1965年生まれ。冬季オリンピックに3度出場。長きに渡ってワ  
 ルドカップを転戦し、世界のトップスラロマーとして活躍。引  
 退後は、プロスキーヤーとしてスキーの魅力をさまざまな形で表  
 現し、伝える活動を続ける。今回はシニア代表として参加

**寺田シュリ**  
 1982年生まれ。高校卒業後、英語習得とスキーのインストラク  
 ターをめざしカナダ・ウィスラーへ。そこでフリーライドの世界へ。  
 2005年、2006年のハーフパイプの大会で優勝するなどの好成  
 績を残すが、膝を故障。2007年は大会には出場せず、フリースキ  
 ーを中心に活動。今回は若者代表として大人のリゾートを体験



手にしているカードは、グレンデのフォトサービスの撮影後にもらった整理券。ウェイルビレッジにある写真屋さんにもそのカードを持っていくと、自分の滑りがチェックできる



グルーミングされているバーンには、こんなサインが案内板につく



一番左が今回ウェイルを案内してくれた林さん。スキースクールのベテランインストラクターだ



何日も前に降り積もった雪なのに、スキー板で舞い上げるとこんなにさらさら。ウェイルの雪質の良さを実感



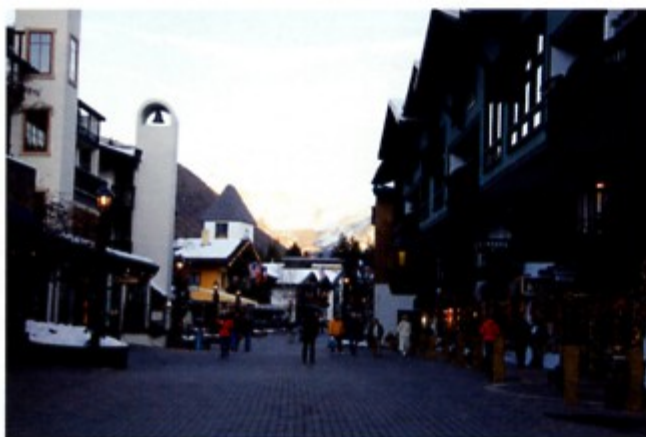
# Vail

ヴェイル



コロラドで知っているスキー場はどこかと聞かれて、皆さんは真っ先にどこのスキー場を思い浮かべるだろうか？ 本誌読者であれば、過去に何度かレポートしているヴェイルという答が多くなると思うが、コロラドには26のスキー場があり、アメリカのなかでも高級リゾートが集まったエリアだ。その中から今回は、大人のスキーをテーマに、ヴェイル、ビーバークリーク、アスペン&スノーマス、スチームボートにフォーカス。いずれも、アメリカを代表する高級リゾート。とくにヴェイルは米スキー雑誌の人気投票などでも、毎年ナンバーワンの評価を得ている。今回の旅は、そのヴェイルからスタートした。

ヴェイルのベースの標高は2475m。スキー場山頂の標高は3527m。たとえるなら、富士山の五合目から山頂付近でスキーをしているようなものだ。「標高が高いので、高山病にならないように水分をよく取るようにしましょう」と、スキー場を案内してくれる日本人インストラクターの林さんがアドバイスしてくれる。標高の低いところから時間をかけて登ってくれば、その標高を実感できるのだが、滞在しているコンドミニウムからベースまで、坂を登った印象はなく、標高の高さが実感できない。一般的なツアーでは、コロラドの玄関口である州都デンバーからヴェイルまでバスなどで移動してることが多いようだが、今回は近くのイーグルカントリー空港まで飛行機で移動したため、とれだけ標高が上がったかが理解しにくいことも影響しているようだ。しか



ヨーロッパの雰囲気を  
持つヴェイルビレッジ



バックボウルへの入り  
口。奥に見えるのがブ  
ルースカイベイスン



リフト営業終了ととも  
にグルーミングがス  
タート



ここがチャイナボウルの  
上にあるツールクロッ  
ジ。巨大なログハウスだ



こんなきれいなグルー  
ミングバーンのロング  
コースがたくさんある



天気の良い日は外でラ  
ンチが定番。このとき、  
水分補給を忘れずに



運行スケジュールを  
チェックし、シャトル  
バスを有効に使おう

も、そこが普通の町のようにぎやかさ  
だからなおさらだ。  
エリアの広さは5289エーカー。事  
前にリサーチしたときに見たこの数字  
が、実際にどれだけの広さかはさっぱり  
イメージできなかったが、その場に立つて  
も、的確に形容する言葉は浮かばない。  
あえて言うなら、白馬エリアがひとつの  
スキー場になっているようなイメージだ  
ろうか。数日の取材では到底すべてを把  
握することはむずかしく、今回はウェイ  
ルが誇るバックボウルを滑ることに。ス  
キー場に向かって右側のベース「ライオン  
ズヘッド」からゴンドラ、リフトを乗り継  
いでミッドヴェイルへ。そこからさらに長  
いリフトを乗り継いでバックボウルの入  
り口へと行く。しばらく雪が降っており



ず、コロラドの乾いたパウダーの深雪を滑  
ることはできないが、驚くほどきれいに  
グルーミングされた(圧雪された)バーン  
のクルージングは、パウダーに負けない気  
持ち良さがある。これだけで、もう充分  
に太ももに乳酸が溜まり、悲鳴を上げそ  
うになる滑走距離だ。バックボウルの数  
は9つ。林さんのお薦めは、ツールクロッ  
ジ下に広がるチャイナボウル。グルーミ  
ングエリアではないのに、バーン状況は良  
く、普段から雪質が良いことが想像でき  
る。さらに想像力を膨らませて、ここにバ  
ウダーの深雪があることをイメージする  
と、それだけで顔がほころぶ。今すぐにで  
も雪が降ってこないかと周囲を見渡して  
も、青く広大な空が広がっている。バック  
ボウルのさらに奥のブルースカイベイス  
ンまで脚を伸ばし、ベッツボウルを滑る。  
ここは、パウダーのツリーランが楽しめる  
エリア。グルーミングバーンも気持ち良  
いが、やっぱりパウダーも恋しい。まだま  
だ開発中だというブルースカイベイスン。  
ヴェイルに訪れたときは、ぜひ滑ることを  
お薦めする。

午後になると、コロラド初体験の寺田  
が頭痛を訴える。水分をたくさん補給す  
るようになっているとのことだが、初日から  
ハードに滑りすぎ、軽い高山病にかかった  
ようだ。標高を下げるために、ライオンズ  
ヘッドへ戻るとのこと。しかし、簡単に戻る  
と言ってもその標高差は約1000m。リ  
フトの営業時間に気をつけておかないと、  
目的のベースまで戻れないことになってし  
まうかもしれないので注意しよう。

さまざまなシチュエーションのなかで、滑ることを純粹に楽しむことができる

ビーバークリーク

# Beavercreek



きれいに圧雪された斜面。標高が高いので午後でもこの状態が続く



ピレックス前のゲレンデは、キッズスキーヤーたちのエリア



「ビーバークリークは、選手時代に大会で何度も訪れた懐かしい場所。ただ、滑ったのはほとんどが大会バーンとその周辺に限られていたので、今回はその奥深さを感じることができてうれしかった。ある意味でここは穴場。どの斜面もおもしろく滑るのが楽しかった」(岡部)

ヴェイルほどの広大さはないが、斜面の表情は豊か。ワールドカップのダウンヒルで使われる急斜面のロングコース、止まらずには滑りきれないが、あまり止まってはかりいるとなかなか降りてこられないコブのロングコース、どこまでも安心してクルージングできる中斜面など、滑ることを思う存分楽しむことができる。ホウルをはじめ、エリアを楽しむヴェイルに対し、ひとつひとつのコース



ダウンヒルコース下の  
レッドテールキャンプ。  
スモークミートが自慢



想像どおりにアメリカン  
サイズのサンドイッチ



ダウンヒルコースの中間部からのロケーション。  
写真ではわかりづらいがけっこう斜度があり、こ  
こをダウンヒルするなんて信じ難い



リゾートタウンの中心にあ  
るスケートリンク。映画の  
ワンシーンに出てきそう



リゾートホテル内のアク  
ア施設にあるジャクージ。一度入ったらなかなか  
出られない(笑)

## SIDE SHOTS!



今回はビーバークリー  
クのコンドミニアムに  
宿泊してヴェイルと  
ビーバークリークを満  
た。ここはメインのペ  
ットルーム



食材は、ビレッジ内の  
スーパーで購入。なん  
でもさすが、醤油や味  
噌などの調味料は持  
参したほうが良さそ  
う



“初日から軽く”なん  
て言ったのに、このピ  
ザの大きさときたら……。  
しかし、今回の旅では  
けっこうピザに世話に  
なった



二日目のディナーは、  
ウェイトニングバーも  
ある本格的なレストラ  
ン。前日は対照的な  
上品な食事



グレンデ前のホテルの  
マシュマロサービス。  
温めたマシュマロと  
チョコレートで挟ん  
で食べるのだが、火  
に近づけすぎて焦げ  
てない?



オリンピック選手のお  
茶目な一面(笑)



スキー場上部にあるパーク。レベル  
を問わず誰でも楽しめるよう、いろい  
ろなセクションが用意されている



宿泊しているコンドミ  
ニアムからスキー場へ向  
かう。ビレッジ内は、ど  
こを切り取っても雰囲気  
があり、絵になる



OK 牧場を営み、スキー  
インストラクターも務  
めるケン伊藤さん。同部  
とは旧知のなかで、こ  
の日はケンさんに案内  
してもらった



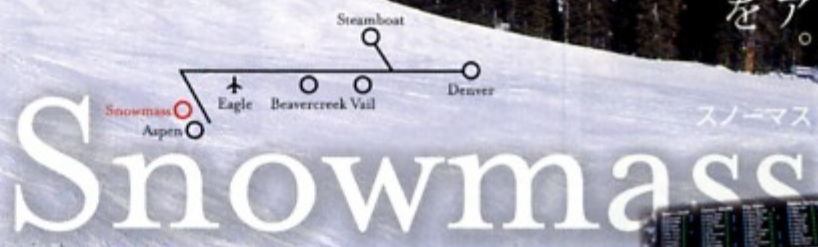
キッズスクールなど、  
子供に関する施設。サー  
ビスが充実している

を楽しみながら降りていくのがビーバークリークといった感じ。しかも、それぞれのコースの接続が良く、数多く滑ることができる。前日滑ったヴェイルは、あまりにも広大すぎるためか、コースをひとつずつ楽しむという感じではなかった。その点においてはしっかりと性格分けがなされていると言えるだろう。

「むずかしいコースにはかならず迂回コースがあったり、スキー場上部にファミリーズンがあるやさしいスキー場という印象。大好きなパークの整備も良く、技術レベルや志向がバラバラでも大丈夫。みんなで楽しめそう(寺田)

リフトチケットは隣のヴェイルと共通なので、バーンコンディションをチェックして滑るスキー場を選ぶと良いだろう。降雪後ならヴェイル、前日降らなかったらビーバークリークというような選択もありだ。

光に溢れた開放的なスキーエリア。  
 スキーはもちろん、食事や景色を  
 ゆったり楽しむことができる。



FREE SNOWMASS MOUNTAIN TOURS	
1	...
2	...
3	...
4	...
5	...
6	...
7	...
8	...
9	...
10	...
11	...
12	...
13	...
14	...
15	...
16	...
17	...
18	...
19	...
20	...



朝6時半にビーバークリークを立ち、シャトルバスでアспенへと向かう。正確には、バスではなく大型のバン。アメリカンサイズの大きなハイラックスサーフのような車で、長距離タクシイというような感じ。ビーバークリークからアспенまでは、約2時間の距離。いつもの取材なら、自分でレンタカーを運転して移動するが、今回は寝ていける。そんな小さな幸せを感じられると思っただけ、メキシカンの運転手が、しっかりと観光案内をしてくれて、最後まで目をつぶることができなかった。





そしてこれが山頂からの大パノラマ



ここがスノーマスの山頂。富士山よりも高い



ロングターンで滑るジル。スキーストラクターらしいきれいなフォーム



飛ぶほうが得意の寺田だが、グルーミングバーンを本当に楽しそうに滑る



無料のドリンクサービス。コロラドでは水分補給は必須事項



標高3000m付近にありながら、本格的な食事ができるレストラン



ひとつひとつのコース幅が広く、スキー場全体に開放感がある



右が今回アスペンを案内してくれたジル。レディという言葉がマッチするすてきな女性



スノーマスのビレッジモール。現在は必要最小限といった感じだが、開発はまだ進んでいるとのこと



シャトルバスは、アスペンのバスステーションから出発。わかりやすいので安心して利用できる

アスペンには、予定よりも少し早く到着。ゴージャスなホテルやコンドミニウムが建ち並んでいたビーバークリークとは対照的に、こちらは歴史あるオールドタウンという雰囲気。アメリカの映画の中では、エグゼクティブが行くスキー場として扱われていることが多く、スキーと言えばアスペンということが一度は訪れてみたい場所になっている。単純にホテルなどの宿泊料を見ても、高級リゾートであることはまちがいないのだが、派手なところはなく、上品という言葉がマッチする場所だ。

アスペンは、アスペンマウンテン、アスペンハイランド、バタールミルク、スノーマスの4つのスキー場からなるリゾート。そのなかで一番の広さを誇るのがスノーマス。ベースの標高が2470m、山頂は3813m。ついに富士山を超えてしまった。森林限界を超え、大きな木がない山頂からのパノラマは一見の価値あり。開放感があり、岡部、寺田ともに大感激だった。森林を縫うようなコースでも、比較的幅が広いために圧迫感がなく、光に溢れている。岡部曰く「北欧のスキー場のような雰囲気」なのだという。ランチを取るならすてきな場所があると、今回のガイドを務めてくれたジルが予約してくれたのは、標高3000mを超えたところにあるゲレンデ内のレストラン。この標高でありながら、街中で食べるのと変わらない質とサービスに、世界のさまざまなスキー場を知る岡部も感心していた。

## ASPEN TOWN



カウボーイハットが目にとまり試着する岡部。けっこう似合ってます

編集部よりも広いコンドミニアムのリビング



アスペンで和食が食べたいと思ったら「KENICHI」へ。予約は忘れずに



こちらはホテルの寢室。このような落ち着いた雰囲気が多い



アスペンでもコンドミニウムを利用。人数が多いときは快適



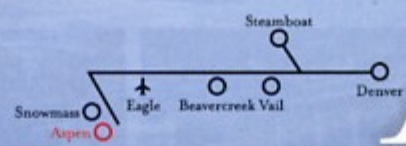
このサンドイッチは絶対に食べたほうがいいとのことだったが、結局、タイミングが合わず……。アスペンに行ったときはぜひ!

上 ゴールドラッシュに満いた時代もあったアスペンの街並  
下 カウボーイが操る馬車で町を散歩するのもいい



アスピンの街を見下ろしながら滑る  
ロケーションが最高のアスペンマウンテン。  
バックボウルが魅力のアスペンハイランド。  
それぞれの個性をまるごと楽しもう！

アスペンハイランド、アスペンマウンテン



# Aspen Highlands Mountain



アスペンマウンテンの Gondola 前のスクエア。アスピンの街は、背景の目になっているので迷いにくいがいい

翌朝、アスペンマウンテンのサービスのひとつ「ファーストトラック」を体験。通常の営業時間よりも前に Gondola に乗り、文字どおりファーストトラックを滑らせてくれるというもの。人数限定の予約制で実施されるので、前後にほかのスキーヤーに出会うことはなかった（最新情報はHPで）。降雪があれば、ノートラックの深雪を独り占めできたのだが、この日も雪が降る様子はない。その代わりに、きれいなグルーミングバーンをほかのスキーヤーを気にせずクルージングできるのは最高だ。「ピンと張った朝独特の雲囲気のある景色があまりにもきれいで心奪われた」（寺田）。日本でも同じようなサービスがあるが、その規模やアスピンの街に滑り込むロケーションは、やはりひと味違うものだった。

極上の景色とグルーミングバーンを堪能したあとは、シャトルバスでアスペンハイランドへ移動。アスピンの4つのスキー場は、シャトルバスでつながっており、運行本数も多いので、行き来がしやすい。

ハイランドの魅力は、なんと言ってもハイランドピーク（3777'）から広がるハイランドボウル。スキー場山頂からスノーキャット（雪上車）のオペレーションもあり、降雪時にはパウダー天国となる。今回は新雪がなく、パトロール小屋から眺めるだけだったが、「あそこが深雪になったときのことを想像するとゾクゾクする」（岡部）という思いは、スキーヤーなら誰もが感じるものだろう。そんな思いに後ろ髪を引かれながら、ハイランドの長い中急斜面を思い思いに滑り降りた。





アスペンマウンテンで、ファーストトラックを楽しむ3人



スキー場山頂にあるパトロール小屋から見たアスペンハイランドのハイランドボウル



リフトのセーフティバーに装着されているマップ。けっこう便利



両部がたすきかけにしているのは、スキー板を担いだり人を背負うときに使えるスリング。このパトロール小屋で購入できる



太陽の光に溢れ、暖かそうに見えても、この気温。おかげで雪質は最高



アスペンハイランドには、ナスターコースが常設されており、レースの練習も盛んに行なわれていた



バターミルクで開催されていたXゲームもしっかりと観戦



スキークロスには、マッシュの福島のり子選手が参戦。瀧澤宏臣選手とともに大健闘!



アスペンでは、スキー場の要所にドリンクサービスのワゴンが設置されている



ロッジの中には暖炉もあり、ゆっくりと休憩することができる



アスペンハイランドのベースロッジ



スノーボードのスーパーパイプ。最終種目だったこともあり、ギャラリーが会場を埋め尽くす



スノーモービルのフリースタイルセッション。ジャンプするたびに会場が沸く

SIDE SHOTS!



アスペンハイランドの中間部にあるレストラン。あまり時間がないと伝えたら、スープとパンをすぐに用意してくれた。このように臨機応変に対応してくれるサービスがうれしい。味もGOOD!

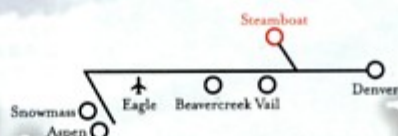




スキーと温泉はベストなダブル。  
 温泉はスキー場の疲れを癒す。  
 スキー場は温泉の魅力を高める。



スキー場の中間部からのロケーション。向こうに見えるのがスチームボートの街



# Steamboat



アスペンを夕方に出発し、最終目的地のスチームボートへふたたび長距離タクシード移動。一度、ウェイル、ビーバークリークに戻るようにコロラド川に沿って走り、ビーバークリークを通り過ぎてから北上する。だだっ広い高原を突き進んでいると、天候がどんどん悪くなり、ちらちらと雪が舞い出す。スチームボートスプリングスに着いた頃には日が暮れてしまったため、車の中からはどれだけの雪が降ったかわからなかったが、ホテルに到着して外に出てみると、10センチほどの積雪がある。その雪はふわふわと軽く、靴で踏みしめる前に飛んでしまうような感じ。さらに、その雪は夕食後も降り続いていた。舞

い降りる雪を見つめていると、ついつい笑顔になってしまう。

翌朝、やや小降りになったとはいえ、まだまだ雪は降り続けている。待望のシャンペンパウダー・スノー。迷わず山頂(3221m)に上がり、ノートラックのバーンを探す。ゴンドラスクエアのカフェでゆっくりと朝食を取りすぎて、やや出遅れたが、まだまだ残っている。滑り出すと前が見えなくなるほど舞い上がり、スキーヤーを覆い隠す。ときおり強く降り、視界が悪くなったりするので、林の中を滑ることに。「日本のようにスキー場内に音楽放送がないため、耳を澄ませるとしんしんと積もっている雪の音が聞こえそう」(寺田)。全身雪まみれになりながら初体験のシャンペンパウダー・スノーを楽しんだ。

極上のパウダー・スノーと居心地の良いホテル、これに温泉があつたら最高だと、日本人なら誰でも思うはずだろう。その温泉が、ここスチームボートにはあるのだ。夕方、ホテル前からバンに乗って向かった先はストロベリーパークホットスプリングス。ストロベリーというスイートなイメージとは裏腹に、野趣溢れる大きな露天風呂なのだ。熱すぎない湯温は、疲れた身体を癒すのに最適だ。

二日目も雪は降り続き、ノートラックを見つけては深雪を泳ぐ。旅の最後にパウダーの歓迎。雪原でのホースバックライディングも体験するなど、コロラドスキーの懐の深さを感じつつ、旅を終える。



本物のカウボーイがいる街。スキー場近くのリゾートビレッジもいいけど、街中に宿泊するのもお薦め



ホースバックライディングを体験。雪原を約1時間歩くコースだが、馬との一体感やゆっくりとしたリズムに心が癒される



これまで春のような天候だったが、一変して真冬に



「とっておきのパウダーポイントはある？」とたずねたら、今日はどこでもどうぞだって(笑)



左が今回のガイド役を務めてくれたセールスマンのマイク



グルーミングバーンばかりを滑っていた岡部と寺田にとっては、待ちに待った雪だった

あまりの寒さにデジカメの調子もいまひとつ

宿泊したスチームボートグランドのメインエントランス



ゴンドラスクエアのカフェで朝食。スターバックスのような感じだが、ボリュームもあってなかなか美味しかった



奥に見えるのが温泉。野趣溢れる大露天風呂。暖かな更衣室などではなく、東屋のようなところで水着に着替える。外灯もなく、懐中電灯を渡されて、ちょっとしたアドベンチャー気分も味わえる



レンタルショップには、セミファット系のスキー板が多い。スチームボートはパウダー好きが集まるスキー場のだろう



あまりやったことのないルームサービスを利用したディナーも体験。少しだけお金持ちになった気分

\* INFORMATION = 今回の旅人、寺田シュリのコロラド・フォト&レポートをスキーチャンネルに掲載。ぜひご覧ください。http://www.skichannel.jp